

水稲新品種「ひなたまる」デビュー

～すべてに寄り添うお米～

【作物育種研究担当：45-8807】

温暖化による品質低下が問題となっていた「ヒノヒカリ」と「たんぼの夢」の後継品種として、「ひなたまる」を開発し、2024年9月に品種登録出願を行いました。

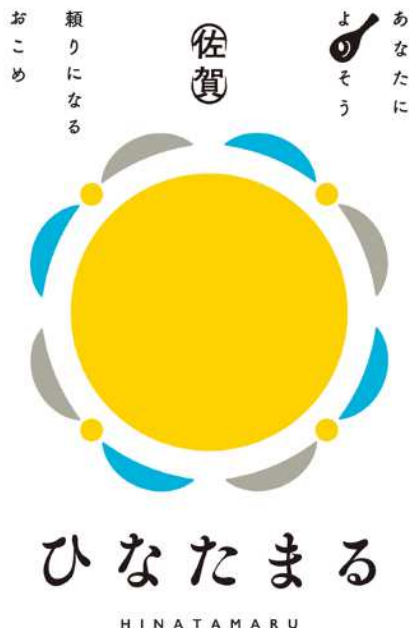
当品種は多収で病害虫・高温登熟耐性に優れており、昨今、米不足や温暖化による品質・収量低下が問題となる中でも、農家が安心して栽培でき、高品質なお米を消費者へ安定供給できる品種として期待されます。

【育成経過】

- 2013年に「関東263号」を母とし、「西海291号（つやきりり）」を父とした人工交配
- 2019年に「佐賀69号」の系統名で奨励品種決定調査事業に供試
- 2020年から、現地試験を開始
- 2024年12月20日に出願公表

【特徴】

- ①収量は「ヒノヒカリ」より2割多収
- ②高温登熟耐性に優れ、白未熟粒が少ない。
- ③高温年でも、外観品質が優れる。
- ④いもち病に強く、トビイロウンカによる被害は「ヒノヒカリ」よりも少ない。
- ⑤食味は、「ヒノヒカリ」並みに美味しい。

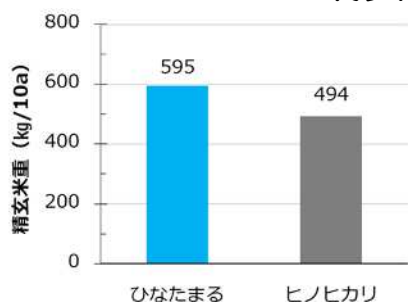


【品種名の由来】

生産者、消費者、実需者すべてに寄り添うという思いを込めて、あたたかさとしつこさが感じられる「ひなたまる」と命名されました。

①収量

・「ヒノヒカリ」より
2割多収



注) 2017～2024年の農試奨励圃場

②高温登熟耐性

・高温条件下でも白未熟粒が少ない

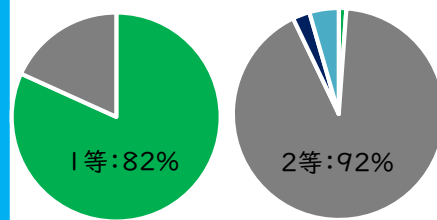


ひなたまる

ヒノヒカリ

③外観品質

・外観品質は良く、検査等級は1等中心



ひなたまる

ヒノヒカリ

■ 1等 ■ 2等 ■ 3等 ■ 規格外
注) 2024年高温年の現地圃場の等級

④病害虫耐性

・トビイロウンカの被害は
「ヒノヒカリ」より、少ない。

・いもち病に強い



ひなたまる

ヒノヒカリ



ひなたまる



ヒノヒカリ

注) 現地いもち病多発圃場(2023年)

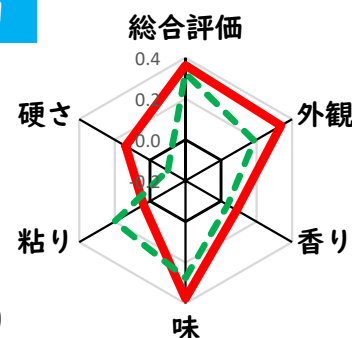
注) 農試無防除での検定圃場(2022年)

⑤食味官能評価

・米飯は「ヒノヒカリ」
と同等に美味しい。

・粘りが少なく、あつ
さりとした味

・外観がよく、しっかり
とした食感



— ひなたまる ... (参)ヒノヒカリ

注) 本データは日本穀物検定協会に依頼したサンプルのみの米の食味官能試験結果であり、全ての商品进行评估するものではない。基準品種は当該年産複数産地コシヒカリのブレンド

ごあいさつ

新年度となり、当センターは私も含め新たな顔ぶれ、新たな体制で始動いたしました。

近年は、夏場の猛暑など気候変動が深刻化しており、農産物の収量や品質に大きな影響を与えております。また、農業者の高齢化等に伴う担い手や労働力の不足は依然として続いており、令和の米騒動や野菜の価格高騰もあって、食料の安全保障の確保がクローズアップされています。

当センターでは、こうした様々な課題や情勢を踏まえ、

- 1) さが園芸888運動に貢献する園芸作物の省力化・高品質化・高収益技術の確立
- 2) 米麦大豆の安定生産技術の確立
- 3) 深刻化する気候変動に対応するための技術開発

の3つを令和7年度の重点取組事項として設定し、効果的な試験研究の推進に務めてまいります。

新たな試験研究としては、タマネギ栽培の更なる生産拡大を図るための機械化体系における高品質生産技術の確立やドローンを用いた省力防除技術の開発、防根シートを活用したキュウリの根域制限栽培による高収量安定生産技術の確立、ロボット田植機などのスマート農機と衛星データを活用した水稻の省力化低コスト生産技術の開発、中山間地域の課題としてはハウレンソウの廉価型雨よけ施設による安定生産技術やサトイモの育苗技術の確立などに取り組むこととしています。

今後とも、関係機関・団体等との連携強化によりまして、一層の試験研究の効率化と加速化に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



所長 川崎 直樹

研究成果の紹介

水稻直播栽培

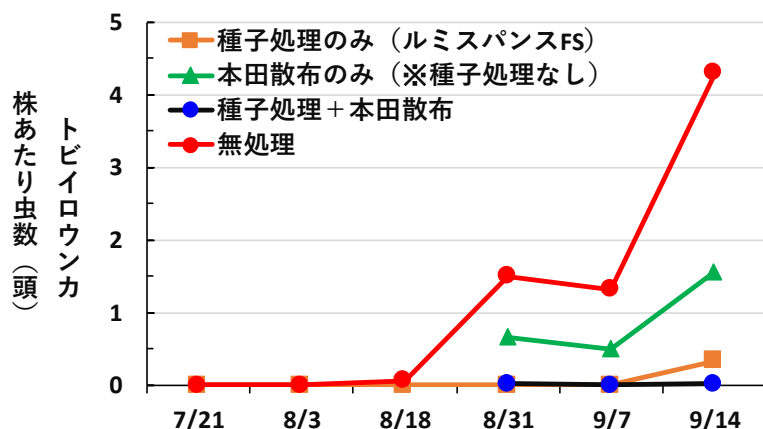
新規種子処理殺虫剤はトビイロウンカに有効！

【病害虫・有機農業研究担当：56-2040】

水稻の直播栽培は省力化が期待される技術ですが、箱処理剤が使用できないため、トビイロウンカが問題となります。

そこで、新しく開発された種子処理剤「ルミスパンSFS」の塗布処理の実用性について検討しました。

その結果、播種前に種子コーティング処理を行うことで、栽培期間中のトビイロウンカの発生を少なく抑えることを明らかにしました。



湛水直播での各体系の効果 (2022年)



無処理種子 (左) と塗布処理種子 (右：ルミスパンSFSとルビアを混用して処理)



トビイロウンカ (左下) と被害圃場 (右)

研究成果の紹介

夏の暑さに強い黄色スプレーギクを開発し、品種登録出願を行いました

7月～10月上旬開花作型向けの黄色のスプレーギク2品種「佐賀SK36号」「佐賀SK37号」を開発し、令和7年2月に品種登録出願を行いました（現在、出願公表前）。

【花き研究担当 45-2143】

これら2品種は、近年、夏の高温期のキク栽培で問題となっている開花遅延をしないこと（電照消灯後、7～8週で開花）や、奇形花の発生が少ないことが大きな特徴です。

今後は、現地での実証試験を通じて、県内へ普及拡大を図っていきます。



表 8月開花作型における特性（R6）

佐賀SK36号

佐賀SK37号

品種	花色	消灯日	開花日	到花 日数(※)	切花長 (cm)	85cm 調整重(g)	花蕾数
佐賀SK36号	レモンイエロー	6月15日	8月6日	53	89.6	50.6	10.5
佐賀SK37号	濃黄色	6月15日	8月7日	54	84.3	51.7	15.2
セリミニ（対照）	黄色	6月15日	8月23日	70	105.7	50.7	11.6

(※) 電照消灯後から開花までに要した日数

トピックス

「いちごさん」早出し栽培技術に取り組んでいます

【山間農業研究担当（畑作） 56-2040】

佐賀県の中山間地域は平坦地に比べ冷涼な気候であることから、10月の極めて単価の高い時期からイチゴの早出し出荷が可能です。その特性を活かすため、低コスト生産が可能なトンネル栽培による早出し栽培技術を開発中です。

年内のみの収穫で収量1トン/10a、販売金額300万円/10aを目指しており、中山間地域のイチゴ生産者の増加につながるように今後も尽力いたします。



トンネル栽培

【場内試験】

・株間の違いによる収量性（15cm・20cm・25cm）

試験区	収穫開始 (月/日)	商品果数 (果/株)	平均一果重 (g)	商品果収量 (kg/10a)	商品果率 (%)
15cm	10/20	9.0	15.7	1,339.6	81
20cm	10/19	10.6	15.1	1,143.1	83
25cm	10/20	9.2	16.1	846.5	73

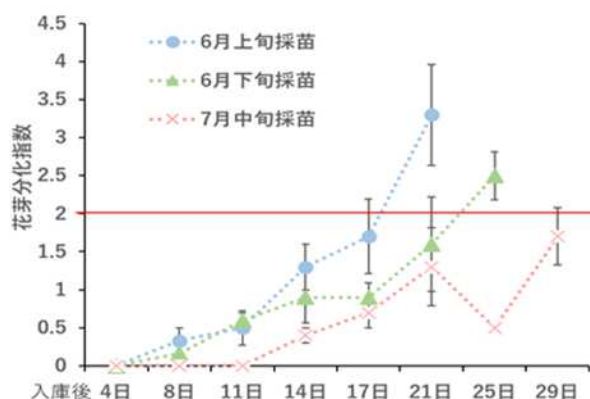
目標反収1トン/10a越え達成！

「いちごさん」の花芽分化安定化技術に取り組んでいます！

【野菜研究担当（栽培） 45-2143】

近年、育苗期間の高温により、花芽分化時期が遅くなる傾向にあります。記録的猛暑が常態化しつつある中、花芽分化を促進するために、育苗期後半に苗を冷蔵庫に入れる株冷処理試験を行っています。

R6年度の試験結果から、6月上旬までに採苗し、遅くとも8月上旬までに最終施肥を行い、入庫時に植物体の硝酸イオン濃度を50ppm程度にすることで、20日程度の株冷処理によって花芽分化が安定的に進む傾向が見られました。現地普及に向け、今後は入庫時期等の検討を行っていきます！



採苗時期の違いと花芽分化指数の推移

注) 処理開始: 8月26日 庫内温度 10~14.5℃



株冷処理の様子 (R6年)

作物育種 職員の紹介

当研究担当では、水稻、大豆及び麦類の新品種の育成・選定に取り組んでいます。これまでに、水稻では「夢しずく」「さがびより」「天使の詩」「ひなたまる」、大豆では「佐賀黒7号（黒大豆）」などを育成し、麦類では「はるか二条」「はる風ふわり」「さちかおり」などを選定してきました。

現在、水稻では「夢しずく」よりも多収で、倒伏やいもち病に強く、良食味な極早生・早生品種の育成に、大豆では良質・極多収で「フクユタカ」に代わる品種の選定に力をいれています。また、佐賀県で奨励品種となっている米麦大豆の原々種や原種も生産しています。



新規採用職員紹介

4月から新規採用職員として勤務しています



総務課

神代日茉莉

企画・スマート

古賀愛人

作物育種

田崎涼太

病虫害・有機

上原朋夏

発行所

佐賀県農業試験研究センター

(企画調整部 企画・スマート農業研究担当)

〒840-2205 佐賀県佐賀市川副町南里1088

TEL 0952-45-2142

FAX 0952-45-8801

E-mail nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

佐賀県農業試験研究センター

検索

当ニュース記事を利用される場合は、御一報ください。